

# 図 書 館 報

第135号  
 令和3年2月10日  
 大分工業高等専門学校  
 図 書 館  
 大分市牧1666番地  
 TEL 097(552)6084  
 FAX 097(552)6786



## 〈 も く じ 〉

題字「図書館報」	.....	(校 長 日野 伸一 書)	.....	1
コロナ禍で読んだ大分の歴史と学問のすすめ	.....	校 長 日野 伸一	.....	2
おおいた文学散歩(12) 一大分をめぐる俳句	.....	一般科文系 相本 正吾	.....	3
思い出の一冊	.....	一般科文系 広瀬 裕美子	.....	4
	.....	一般科文系 川野 泰崇	.....	5
	.....	一般科文系 小関 康平	.....	6
	.....	情報工学科 劉 怡	.....	7
令和2年度学生図書委員名簿	.....		.....	8
令和2年度読書感想文コンクール入選者及び貸出上位者・貸出上位クラス	.....		.....	8
編集後記	.....	図書館長補佐 相本 正吾	.....	8

## コロナ禍で読んだ大分の歴史と学問のすすめ

校長 日野 伸一



コロナ禍で、私も休日は上野丘の官舎で終日を過ごすことが増えました。気分転換や運動不足解消のために、家から大分川の河川敷にかけて散策したり、大分の歴史に関する本を読んで過ごしました。そのうちの大分に所縁のある2冊についてご紹介したいと思います。

1冊は、『図解大分・由布の歴史(大分県の歴史シリーズ)』(監修:飯沼賢司、郷土出版社)です。私にとって今年3年目を迎える大分は、一般の観光客と同様、戦国時代に大友宗麟が統治していた程度の知識しかありませんでした。官舎の周辺を散策していると、上野丘陵の路地の要所要所に観光用の表示板が立てられており、その中の一つに、かつて大友氏の居館であった上原館(うへのはるやかた)の跡などもあります。さらに、古代(奈良～平安時代)に遡れば、大分市はかつて豊後国府という律令制の政務を執る行政施設が置かれた都市だったそうです。現存する豊後風土記によれば、「大分郡(おおいたこおり)……此の郡や、頑田国(おおきたのくに)と名づくべし、と。いま、大分(おおきた)は謂うはこれ其の縁あり。」とあり、豊後国府の所以が記されています。豊後国府の正確な位置は未だ確定したものはなく、学説も種々あるようですが、現在の宗麟大橋の少し西側に古国府(ふるごう)という地区があったり、JR久大線の古国府駅などの存在からも、上野丘の高台を中心としたその周辺に国府の中心があったものと推察されます。

上野丘周辺には古い寺社仏閣が多数残されています。官舎に居ると毎朝6時に、すぐ近くのお寺で鳴らす鐘の音が聞こえてきます。わずか100mほど隔てた所にあるそのお寺は金剛宝戒寺という由緒ある真言宗の寺院です。奈良時代の僧侶、行基が、727年に聖武天皇の勅命を受けて建立した寺院で、元々は大分市羽屋に建てられたものを、後年に水害の難を逃れるために現地に移転されたそうです。本寺は寺格の高い寺院だそうで、かつて室町時代には雪舟も招かれ住んだ記録が残されていたり、現在の大日堂の中には国指定重要文化財の木造大日如来座像が安置されているそうです。

もう一冊は、『現代語訳 学問のすすめ』(福澤諭吉、斎藤孝訳、ちくま書店)です。福澤諭吉は、大分県民であれば知らない人は先ずいない中津市出身の郷土の英雄であり、慶応義塾大学を創立した教育者・思想家ですね。一万円札紙幣の表面に載っている肖像でもよく知られています。また、福澤諭吉と言えば、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という名言が即座

に浮かびます。この言葉の由来は、福沢の考えたオリジナルの言ではなく、実はアメリカ合衆国のトーマス・ジェファソンが起草した独立宣言の一節から引用したとの説が有力とされています。

この名言は、数百年続いた封建社会から、近代民主主義国家に転換する時代背景に基づく、人民はみな自由平等の意を示す明快な表現として受け止められています。しかし、その前後の脈絡を読みますと、「天は、人を生み出すにあたり、同じ権利をもち身分の上下なく、……それぞれが安楽にこの世を過ごしていけるようにしてくれている。しかるに、世の中を見ると、現実には賢い人も愚かな人もいる。貧しい人も金持ちもいる。社会的地位の高い人も低い人もいる。こうした差異はどうしてできるのか?その理由はきわめて明らかである。つまり、賢い人と愚かな人との違いは学ぶか、学ばないかによってできるのだ。しっかり学問をして物事をよく知っている者は、社会的地位が高く、豊かになり、学ばない人は貧乏で地位の低い人となる、ということだ。」と述べています。ここで言う学問とは、難しい字句の古文や漢文ではなく、読み書き、算数、地理、経済、道徳(倫理)などといった、生きていくうえで実用性の高い実学を示唆したものです。

学問のすすめは、福沢が1872～76年の5年間をかけて、初編から17編にわたるシリーズものとして書かれています。前述の「天は人の上に…」は初編に記載されています。前半部分は、高等教育を受けていない当時の一般国民を対象とした教科書を想定して書かれており、また、数章を割いて知識人に対する日本の独立維持、明治国家の発展に対する啓発の思いを熱く語っています。後半部分は、生活上の心構え等の持論を述べており、たとえば、第15編「判断力の鍛え方(事物を疑いて取捨を断ずること)」、第16編「正しい実行力をつける(手近く独立を守ること、心事と働きと相当すべきの論)」、第17編「人望と人付き合い(人望論)」など、現代社会においても啓発本として有益な内容が満載されています。

もちろん、当時の時代背景を考慮して読む必要はありますが、福澤諭吉の積極果敢な生き方と思想、そして若くしての海外経験の重要性など、今の学生諸君にも大いに参考となる有益な知見が山積されています。福澤の原著の翻訳本がこれまで多数現代語訳され出版されていますので、未だ読んだことのない人、あるいはずいぶん前に読んだことのある人には、今一度、「学問のすすめ」を試読してみたいかがでしょうか?

## おおいた文学散歩 (12)

## 大分をめぐる俳句

一般科文系(国語科) 相本 正吾

今回は大分に関連する俳句を、三句紹介したい。

## 磨崖仏 千年が過ぎ 蝶が過ぐ

大分県の国東半島に在(ましま)す熊野磨崖仏を詠んだ句だ。大分県は石仏を日本で最も数多く有する県であり、白杵の石仏が有名であるが、山の斜面を彫り上げてそこに仏像の正面を浮かび上がらせた磨崖仏が石仏に属することや、大分県内のこの巨大な熊野磨崖仏のことは、県人の間でも意外と知られていない。

国東半島南部の県道655号線から右に曲がって山道を登っていくと鳥居があり、鬼が築いたと伝わる百段の石段を上がっていくと左手に巨大なこの熊野磨崖仏が見えてくる。左の高さ8m余りの一体が不動明王で、右の高さ7m近くある一体が大日如来だ。どちらも肩から上の頭部がくっきりと浮かび上がって見える。ちなみに、この句は上述の鳥居の右横の石碑に刻まれていて、福岡県俳句協会会長だった岸原清行さんがここを訪れて詠んだ句だ。

この句は、熊野磨崖仏を見に来て、磨崖仏を見上げていたら不意に蝶が磨崖仏の前に現れて、辺りをひらひらと飛びまわり、飛び去っていったということを詠んでいる。色鮮やかに生き生きと飛んで今を生きている小さな「動」の蝶と、千年もここに座している表面が磨滅・風化してくすんだ色合いとなっている大きな「不動(静)」の磨崖仏の姿が見事に対比され、山の中腹とその上方に広がる青空も含め、ひらひらと飛びまわる蝶にしたがって作者が見渡すことになるまわりの春の景色の広がりも暗示されている。

## むっちゃんと 生きし時あり 秋の空

昭和20年の終戦直後に西大分駅近くの防空壕の中でひとり寂しく死んでいった12歳の少女「ムっちゃん」のことを詠んだ句だ。横浜に住んでいて戦時中に戦災で両親と弟を失い、親戚が住む大分市に疎開してきたムっちゃんは、不幸にも肺結核を患って防空壕の中の片隅に隔離されて、飢えと孤独の中で亡くなった。我々市民は戦争の犠牲となったと言えるムっちゃんのことを忘れることなく広く知らせていこうということで、戦後、大分市牧に公園の隅に作った舞台に彼女の記念像を据えた平和市民公園が設けられ、さらに、社会の平和を祈念し彼女のことを偲んでいく句会が毎年一度行われ、平成25年度のその句会で最優秀賞を得た神崎朱夏さんの句がこの句である。

ムっちゃんと同じ世代であり、同じ少女として苦し

くて不安な戦時中の生活を送ったという辛い体験を作者は先ず詠み、焼夷弾を投下していく爆撃機が現れる戦時中の恐怖に満ちた暗黒の空と比べての、戦後の今の穏やかで平和な秋の青空をしみじみと仰ぎ見つつ、子供たちに将来自分たちが体験したような戦時中の生活を送らせてはならない、今の平和が今後も続いてほしいという願いを作者は末の句「秋の空」に込めると言える。

## 旅に病で 夢は枯野を かけ廻る

松尾芭蕉は元禄7年に初めて九州を訪れようと江戸を発ったが、この句は、その途中で病にかかり亡くなってしまおう大坂の宿の病床で詠んだ芭蕉の辞世の句だ。九州へ初めて行く途中、病にかかって宿の病床で寝て見る夢は自分が枯野をぐるぐると果てしなく駆け回る、そういった夢ばかりだという病床における芭蕉の心身の苦しさや言いしれぬ孤独がこの句に読み取れるが、一方、なんとかして九州に行き着いて九州の美しい自然や九州の方々に触れて、良い句を作りたいという病床で抱く願いが枯野へと翔けていくよという解釈も可能であり、後者の解釈では、句中の「枯野」は、訪れる予定だった九州の豊後の国の枯野を思い浮かべて言ったものだと捉えることも出来る。

以上の通りこの句は芭蕉が大分に来訪して大分の自然を実地に詠んだ句ではないのだが、大分のことを思い浮かべて詠んだ大分に関連する俳句として、今回取り上げた次第だ。

大分に住む長年の芭蕉ファンの私としては、芭蕉には豊後を訪れて豊後にある数々のすばらしい自然や名所を詠んだ名句を残してほしかったという思いが捨てきれず、それが実現しなかったことがまことに残念でならない。



## 思い出の1冊

## 『ぎ・ちえんじ』から『とりかへばや物語』…そして『君の名は。』

一般科文系 広瀬裕美子



今回の寄稿に際して、本との出会いをあれこれ想起してみた。幼い頃、親が読み聞かせてくれた絵本を始め、幼稚園では『ぐりとぐら』や『モモちゃんとアカネちゃん』等々…、小学校では「世界の偉人・伝記」シリーズや「江戸川乱歩作品」等々…。そして、決定的な思

い出は、何と行っても中学時代である。

それは、友人から『なぎさボーイ』『多恵子ガール』〔氷室冴子 集英社文庫 コバルトシリーズ〕を勧められ貸してもらったことに始まる。この作品は、中学～高校時代のなぎさと多恵子のほのかな恋愛話であり、胸をキュンキュンさせながら夢中で読んだ。それまで私は、一つの物語において男女の視点で別々に書かれた作品を読んだことがなかったため、非常に新鮮で、二人の気持ちが詳細に分かるところに面白さを感じた。

それを契機に次々と氷室作品を読了。中でも最も興味を持ったのが、『ぎ・ちえんじ』〔氷室冴子 集英社文庫 コバルトシリーズ〕だった。時は平安時代。権大納言家に男の子と女の子が誕生し、活発であった女の子は男子として、内気な男の子は女子として成長するが、様々なハプニングを乗り越え、最後には、男女ともに無事「ちえんじ」し、ハッピーエンドで終了という内容である。この話もまた胸をキュンキュンさせながら一気に読んだのだが、その「あとがき」から、『ぎ・ちえんじ』は、「平安時代に成立した『とりかへばや物語』を元にして書かれた」ということが分かった。そこで、次は、『とりかへばや物語』とはどのような本なのか無性に知りたくなり、必死に探した。当時はまだ中学生であり、古文で書かれた原文のままでは解説できなかつたため、現代語訳が付されたものが欲しかった。

ネットがない時代、あちこちに電話をして尋ねると、中央町の明屋書店（セントポルタ店）で注文すれば手に入るとのことで、すぐに参上した。いつもは雑誌、小説や漫画がある1階しか行かなかったが、その時初めて2階の文芸書コーナーに行き、国文学を始め様々なジャンルの専門書を見て感動したのを覚えている。

そこで、注文したのが『とりかへばや物語』全四巻〔桑原博史「講談社学術文庫」〕。首を長くして待ち続けること数週間。ようやく手元に届き、貪るように読み、話の面白さに成立時代は関係ないことに感動したり、『ぎ・ちえんじ』での改変箇所を確認したりして、一人地味に楽しんだ。購入した『とりかへばや物語』は、〈原文・現代語訳・語釈・鑑賞〉で構成されており、私が最も興味を持った

のは〈鑑賞〉の箇所。そこには、『源氏物語』等、他の古典文学との比較考察が書かれており、次は「社会」の授業でも習った、紫式部で有名な『源氏物語』を是非読んでみたいと思うに至った。

そして、高校生になり「古典」の授業が始まった。古語や古典文法を習う中で、実際に原文を自分で訳せていくことにただただ感動した。しかも既に知っている古典文学が出てくることが多く、大空翼くんの「ボールは友達」〔高橋陽一『キャプテン翼』集英社〕の如く、「古典は友達」のような親近感を勝手に覚えた。

ただ当時、強烈に記憶に残っているのは、高校で使用していた「国語便覧」に、『とりかへばや物語』は「奇抜な発想で深みがなく退廃的」と評されていたことである。その後、大学で様々な専門書を読んだが、概ね同じような評であった。私にとっては、物語の構成、テンポの速さ、緻密な設定等どれをとっても予め考え尽くされて描かれた画期的な作品であり、「断じてそんなことはない!」と声を大にして言いたかった。

そして、時は流れ、数年前大ヒットした映画『君の名は。』〔新海誠監督・2016年8月公開〕。この作品を見て、何十年かぶりに胸がキュンキュンした。というのも、「あ!『とりかへばや物語』だ!!」と思ったからだ。

早速、『君の名は。』について調べてみると、「男の子と女の子を取り替えて育てるという平安時代の『とりかへばや物語』をヒントに、じゃあ夢で入れ替わらせようかとだんだん組み立てていったんです。」「『君の名は。』新海誠監督インタビュー「FILMERS」2016年8月19日〕とあった。やはり予想通りだった。

当時は「奇抜な発想で深みがなく退廃的」とまで評された内容が、今の時代では大ヒットしている。まさに「時代が『とりかへばや物語』に追いついた!」と一人地味に喜んだ。思想というものは、勿論、個々人それぞれ異なるわけで「その時代に受け入れられるものもあれば、そうでないものもある」ことを実感した。

先日、思い出の地、中央町の明屋書店に行ってみたが、残念ながら既に他の店舗に変わっていた。そして、『ぎ・ちえんじ』を収載した「コバルトシリーズ」は電子化され、紙の書籍としてはもう無くなっていた。…鴨長明の『方丈記』冒頭「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」の如く、万物は生生流転していく…だが、その根底にある思想は、時の受容・不受容に関係なく、昔も今も変わらず脈々と人々の心の中に受け継がれていく。これは何とも感慨深い。

以上、思い出とともにつらつら書いてみたが、私のようにたった一冊の本から興味関心が多岐に渡ることもある。まずは一冊。深く読んで一人地味に楽しもう。

## 思い出の1冊

## The Norton Anthology of Short Fiction

一般科文系 川野 泰崇



思い出の一冊を考えるにあたって最初に頭に浮かんだのは、R. V. Cassill & R. Bausch (編) *The Norton Anthology of Short Fiction* です。本書はどちらかと言えば、苦い思い出を想起させるものであり、それと同時に、原点回帰させてくれるものでもあります。

この書籍との出会いは16年前の2004年に遡ります。当時の私は教育学部4年生でした。同期の多くが教員採用試験に向けて勉強に勤しむ中、私は1年間大学を留年して、アメリカのフロリダ州立大学（以下、FSU）に単身留学することを決意しました。日本で磨いた英語力を存分に発揮したいという思いと、英語教師として留学経験をしておきたい思いが強かったのだと思います。

ここでの留学は、語学留学ではなく、大学の正規の授業をネイティブの学生らと一緒に受けるものでした。日本の授業は当時レクチャー中心のスタイルが主流でしたが、FSUの授業は、ディスカッションやプレゼンテーションが主流でした。と言えば聞こえは良いのですが、私自身はどうかと言うと、相手の発言を聞き取るのがやっとなで、発言する際も余裕もなく、聞き役に徹することがしばしば。毎日、自分の足りない部分に気づかされては、それをどうにか埋めようと奮闘する日々を送っていました。

受講した科目の中でとりわけ心血を注いだのが、“American Literature”の授業です。そこで使われていた教材が、*The Norton Anthology of Short Fiction* でした。本書は、Nathaniel Hawthorne、Edgar Allan Poe、Ernest Hemingwayなど、名だたる文豪115名のショートストーリーを125作品集めた傑作集で、1,738ページ構成となっています。書店で本書を手にしたときは、逸脱した厚みと鈍器のような重量に思わず吹き出してしまいました。

週に1度の授業では、1作品を取り上げて、小説の技巧や作者の言葉の選択について吟味しながら解釈を進めていきます。文学系の講義は日本でも幾つか受講しましたが、大抵1作品を1ターム（15回）かけて、英文和訳のように一文一文精読していくものでした。それがFSUでは、1回の授業で片付けてしまうわけです。単純に計算して15倍の速度で授業が進むわけです。衝撃的でおぞましい一回目の授業の洗礼を受け、色鮮やかに思い描いた留学生活が奈落へ突き落とされたが如く暗転しました。大学の授業が終わったら、

寮に帰ってまず仮眠、その後、電子辞書を傍らに文学作品を夜遅くまで読み込んでいく。これをほぼ毎日繰り返すわけです。遊ぶ暇なんてありません。挙句には、学期末にA4用紙30枚程度のレポート提出が待ち構えています。五寸釘を打ち込まれたような気分です。

予習に何時間かけたのか考えたくもありませんが、本書を開いて、まず単語の意味調べから始め、次に本文の内容理解、最後に作品の分析を行っていきました。文学作品故に、言葉巧みで知らない単語や奇抜な表現に数多く出くわすわけですが、その都度辞書を引いては意味を確認していきます。この単純作業が遅々として進みません。RPGで例えるならば、数歩で敵に遭遇するくらいの甚だしさで、1時間かけて2ページ進めたら御の字といったところでしょうか。余白に単語の意味を書き詰めて、真っ黒になったページをようやくめくると、そこはあたり一面真っ白なページ。思わず本書を閉じて呼吸を整えます。調べては書いてを何度か繰り返し、残りのページをパラパラめくって確認しては、深いため息をつく。やっとなの思いで単語レベルの確認が終わったら、今度はジグソーパズルを組むように一つ一つの情報を組み合わせて全体像を紡いでいきます。が、これで終わりではありません。授業で求められるのはその先のレベルなのです。

本文の理解が概ねできたら、再度読み直して、どうしてその表現を作者は選んだのか、登場人物の名前にこめられた筆者の意図は何か、登場人物がどうしてそのような行動・発言をしたのか、作中に散見するオブジェクトは何を象徴しているのか、語り手の視点は何人称か、神の視点なのか、はたまた信用できない語り手なのか、作者の生い立ちは作中に反映されているのか、言外の意味やアイロニーはあるか、この作品のテーマは何か等々、授業を受ける毎に追加されていく視点から作品を覗き込んでいくわけです。

選択科目だったので、途中で逃げ出すこともできたのですが、それをやってしまったら自分の中で何か崩れてしまいそうな思いがして（単純にプライドが許せなかっただけかもしれませんが）、どうにか最後まで食いついていきました。そして勝ち取ったA評価。

本書を手にとると当時の苦労が鮮明に蘇ります。同時に、今の自分を奮い立たせてくれもします。残りの作品を読もうと思いつつも、忙しさにかまけて、今では埃をかぶっている本書ですが、当時がむしろに駆け抜けた人生の証であり、努力の灯でもあります。今後もしっとり時間をかけて残りの作品を読んでいこうと思います。

## 思い出の1冊

## 百田尚樹『カエルの楽園』新潮社

一般科文系 小関 康平



11月初旬頃に執筆依頼が届いた。選書に際し考慮すべきことは色々あった。研究者である以上、専門に関係したものをという思いがあるが、堅苦しい学術書はセンスを疑われかねないし、他方、ラフすぎるものは品位を疑われかねない。様々思案したがよく

分からなくなってしまう、執筆を後回しにして、脳内で執筆義務が殆ど忘却の彼方に葬りされつつあった12月中旬頃、遂に締切間近である旨を示す通知が来てしまった。仕方なく本腰を入れて熟慮した結果、標記の書を紹介しようと思う。

本書の物語は、故郷の国を追われることになったアマガエルが平和な新天地を求めて旅に出るところから始まる。アマガエルの名はソクラテスという。彼の故郷は、凶悪なカエルの群れによって仲間達が食い殺されて、地獄と化してしまった。彼は、平和に生きるために旅に出ることを余儀なくされた。そして長旅のすえに、彼はついに安住の地に辿り着いたのだ。そこはツチガエル達の住むナパージュ王国であった。王国は平和そのもので、ナパージュに住むカエル達は誰にも襲われず、危険に晒されることもなかった。本書は、ソクラテスがナパージュ王国における平和の秘密を探っていく様子を描く作品である。

ここまでの説明では、本書はメルヘンの一種かとも思われるかもしれない。しかし、本書を最後まで読めばより分かるのだが、かなり露骨な比喩が散りばめられた社会派の作品であり、そこからは著者である百田氏の思想も看取することができる。紹介を続けよう。

ソクラテスがツチガエル達に平和の秘訣を聞いてみると、王国には〈三戒〉というルールがあることを教えられた。三戒の内容は「①カエルを信じろ、②カエルと争うな、③争うための力を持つな」。しかし、ソクラテスにとっては三戒だけで平和が維持できるとは思えなかった。というも他のカエルを食い殺してしまう残虐なカエルの存在を知っていたからであった。しかも王国南側の崖下には他のカエルを食べてしまうウシガエルの住む沼があった。だが奇妙なことに、王国は残虐なカエルに襲撃されたことがなかった。それもあってかツチガエル達は三戒を強く信奉していた。

あるときソクラテスは、東の岩山に住む巨大な鷲・スチームボートの存在を知る。これまで王国が凶暴なカエルの襲撃を受けなかったのは、三戒遵守にあるのではなく、彼のお陰だということを知り及んだ。話を聞くと色々なことがわかった。その昔は彼が王国を支

配していたこと、三戒は元々彼が作ったものであること…。そして、巨大な鷲がいるからこそ凶暴な動物が恐れて王国を襲わないことが分かった。しかし、彼は王国の多くのカエルから疎ましく思われていた。

話し合いの結果、遂にスチームボートは王国から追い出されてしまう。翌日、南の崖に凶暴なウシガエル達が登ってきてしまった。ツチガエル達は、ウシガエルと戦うために三戒破棄の採決を行おうとするのだが…。そうこうしているうちに、ウシガエル達は、次第に王国の中心部にまで侵入してきて…。かくして、カエルの楽園ナパージュの真の姿が段々と浮き彫りになる。果たしてツチガエル達の運命やいかに…。また、作中で特に注目すべきはダイブレイクである。王国一の博識なカエルとされ、尊敬を集めており、重要選択に指導的役割を果たしていくのだが、その実体は…。

これは単なるカエルを主人公とする童話ではない。本書は、小学校高学年程度の子どものでも読み進められる展開と筆致でありながら、それは、その実、ある実在の国家を取り巻く安全保障情勢とその憲法規定を風刺した寓話である。〈子どもでも読める〉とのことから、本書は一部では危険書のごとき扱いを受けることもある。他方で〈実在の〉ということに関していえば、本書文庫本版265頁目には「この物語はフィクションであり、実在の人物・団体等とは一切関係ありません」との定型文的表示があるが、評者には一種のブラックユーモアにさえ感じられる。

そして本書は当然に学術的な議論としての国家論・憲法論を惹起させうるし、生々しい政治論争にも接続しうる。例えば前者についていえば、消極国家論的思考にあるように、仮に国家目的を極限的に最小化した場合にも残るものは、「安全 (Sicherheit)」である。最小限の国家目的の実現手段の放棄をも命ずる憲法規定がいかに評価されるべきなのか、本誌読者には考えてもらいたい。また後者についていえば、読者諸氏の抱懐する政治思想の差異は別にしたとしても、憲法改正の国民的議論の起爆剤の一つになればと念じている。

ところで、物語の展開の地である楽園「ナパージュ」が何の倒語であるのかを知るとき、本書の物語は我々読者に初めて震撼をともなった当事者性を与えるのである。その意味では、本書は読了したときに物語が終わるのでなくて、我々自身の物語として転化し、再び新たに始まるのである。緊迫した国際情勢になかにおいて、我々がナパージュ (NAPAJ) と同じ運命を辿るか否かは、我々自身の政治選択にかかっていると評者には思わせるのだが、さてどんなものだろうか。

## 思い出の1冊

## 「1日30分」を続けなさい！

情報工学科 劉 怡



皆さん、「本当に勉強したい」という欲求、どういうことか知っていますか？この世界で医師、研究者、航空機操縦士などなど目指す若者がたくさんいます。いつか立派な社会人になります。立派な社会人になるため、どこまで努力が必要でしょうか？「人生は勉強したものが勝ちます」という言葉が『「1日30分」を続けなさい！』に書いてあります。毎日、30分間を出すことが簡単と言えますか？実は、1日に30分も勉強に時間を使えない人は、基本的に勉強したくない人なのです。それは6年前の私です。6年前学校の活動が忙しいために、勉強や研究に時間がなかなか取れず、どうやったら時間をうまく利用することができるのかを考え続けました。勉強がうまくはかどらず、自分自身に不安がありました。集中力が続かずに自己嫌悪な感情に落ち込んでいる状態でした。そのとき、『「1日30分」を続けなさい！』という本を読みました。

著者が試行錯誤を通して身に付けた勉強方法を本で伝授しました。実は、勉強の習慣を身に付けるのは、さほど難しくありません。勉強のコツさえつかめば、その後は習慣化するだけです。ところが勉強の習慣がまだ身に付いていない人にとっては、勉強のコツを見つけ出したり、自分の勉強のペースを見い出すのも大変な作業になります。勉強を始めたころは、勉強がうまくはかどらなかつたり、集中力が続かないために、自信がない状態に陥ってしまうことがあります。特に、得意ではない科目、最悪の場合は、その科目が嫌になってしまいます。この本は、直接勉強に関するのではなく、間接的なことで勉強の効率に大きく影響を及ぼすことについてもアドバイスしています。つまり、トータルで勉強の効率を上げるのです。

著者が試行錯誤を通して身に付けた勉強方法を本で伝授しました。実は、勉強の習慣を身に付けるのは、さほど難しくありません。勉強のコツさえつかめば、その後は習慣化するだけです。ところが勉強の習慣がまだ身に付いていない人にとっては、勉強のコツを見つけ出したり、自分の勉強のペースを見い出すのも大変な作業になります。勉強を始めたころは、勉強がうまくはかどらなかつたり、集中力が続かないために、自信がない状態に陥ってしまうことがあります。特に、得意ではない科目、最悪の場合は、その科目が嫌になってしまいます。この本は、直接勉強に関するのではなく、間接的なことで勉強の効率に大きく影響を及ぼすことについてもアドバイスしています。つまり、トータルで勉強の効率を上げるのです。

勉強方法はいつべんに全部取り入れるのではなく、1つか2つずつ順番に取り入れることが大事です。1つ（または2つ）に集中して習慣化できたら、次のステップに行きます。自分に「これならできそうだな」と感じるやさしいことから始めます。そして、何よりも大切なのは、毎日少しずつでいいから、勉強を続けていくことが大事だと思います。苦手な科目、集中力が低いなどは継続的に勉強をすれば克服できます。「1日30分」の勉強を続けて半年～1年もすると、知識を増えたことを実感でき、自分に自信が持てるようになるでしょう。そうなれば、夢の実現や目標の達成は

もう目の前です。

「1日30分」はいつ出しやすいですか？個人差はありますが、一般的に朝の時間をうまく利用すると効率よく勉強ができます。朝のほうが、勉強を妨げる誘惑が少ないです。例えば、朝早い時間帯だと、テレビのスイッチを入れても面白い番組が少ないです。ところが、夜の時間帯だとテレビ、ゲーム、SNSやその他の誘いなど勉強を妨げる誘惑が多いです。さらに、早朝の時間帯のほうが時間が進むスピードは遅いという人もいます。これを証明する方法はありませんが、勉強の経験から私も朝のほうが時間が進むスピードが遅いと思います。同じ時間でも、朝の1時間の効率は夜の1時間半から2時間くらいに匹敵します。朝6時半頃に起きて、30分から1時間の勉強をすると、その日にこなさなければいけない勉強の大半は片付きます。そのとき、騙されたと思って、一ヶ月早く起きて1時間ぐらい勉強してみました。夜間に同じ時間勉強するのと比べ、勉強の効率や理解スピードが全く違うことがわかりました。朝のほうが効率的に学習できることがわかったら、生活習慣を朝型に切り替えることを強くおすすめします。そのほうが、夜型に比べて時間の使い方が圧倒的に効率的ですし、勉強の効率が格段に上がります。

この本には、他にも様々な勉強方法も含まれています。例えば、効果的な休憩方法も重視する必要があります。脳に「勉強＝痛み」と関連付けさせないためには、定期的に休憩をすることがとても重要です。25分間勉強して5分間の休憩を繰り返します。個人差があるので15分間勉強して、15分間休憩を取っても構いません。要は、比較的短い時間の勉強→休憩のサイクルを1セットとし、これを2～3セット繰り返せば、簡単に1～2時間の勉強はできます。つまり、集中力がとぎれて勉強がイヤになる前に、勉強を一時的に中断するのがコツです。理屈は簡単です。多少しんどい作業でも、15分～30分だけだったら、続けることは可能です。これが、延々何時間も続くことを考えると、それだけで勉強する気がなくなってしまいます。

学生でも、社会人でも、一番効率よく知識を吸収できる方法や時間をうまく使うことが最も重要だと思います。ぜひ参考にしてみてください。



## 令和2年度 学生図書委員名簿

学科 / 学年	任期	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	都市・環境工学科
1	1年	宮ノ内 康太	河村 勇紀	白井 晏地	谷山 竣乃亮
	前期	鮎子田 萌生	山下 礼匡	衛藤 匠史	堤 陸翔
	後期	井上 颯	山下 礼匡	麻生 直晴	堤 陸翔
2	1年	蔵原 晴生	○ 日野 耕介	笹木 香沙未	牧 優花
	前期	後藤 伶音	× 野 航大	横手 杏花	佐々木 紗桜
	後期	栗本 晃希	× 野 航大	横手 杏花	伊井 拓哉
3	1年	長谷川 陽仁	幸 冬磨	小澤 和也	二宮 愛弥
	前期	加藤 孝介	吉武 朋紀	吾妻 勇太	上田 恭平
	後期	加藤 孝介	徳永 仁彦	幸 右京	上田 恭平
4	1年	安藤 遥	足立 悠佳	後藤 優太	葛城 祥太郎
	前期	中津留 凜太郎	穂好 有加	藤井 文音	鎌城 柁平
	後期	中津留 凜太郎	穂好 有加	○ 戸高 幹斗	野中 洸伸
5	1年	立川 正真	◎ 古市 有輝	首藤 瑞希	椋本 美里
	前期	国宗 理恵	佐藤 壮馬	美矢 晃良	森山 竣矢
	後期	国宗 理恵	佐藤 壮馬	美矢 晃良	松浦 美吹

\*図書委員は上段が1年任期 ◎学生図書委員長 ○学生図書副委員長

## 令和2年度 読書感想文コンクール入選者

	クラス	氏名	作品名	著者名
第1位	3E	永松 周	『流浪の月』を読んで	凧 良 ゆ う
第2位	3S	吾妻 勇太	『夢をかなえるゾウ4』を読んで	水野 敬也
第3位	3C	木村 拓実	「当たり前」への感謝	デボラ・ホブキンソン
佳作	1M	後藤 有輝	『ぼくは勉強ができない』を読んで	山田 詠美
//	1S	後藤 結女	「未来へ向かって」	ダイアナ・ハーモン・アシャー
//	1C	安藤 優	『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』を読んで	ブレイディ みかこ
//	2M	鹿子木 蒼空	『君の臍臓を食べたい』を読んで	住野 よる
//	2S	伊藤 福太	『老人と海』を読んで	アーネスト・ヘミングウェイ
//	2C	植木 康平	『人間失格』を読んで	太宰 治
//	3S	柳田 彩海	『お任せ！数学者さん』を読んで	向井 湘吾

## 令和2年度 貸出上位者・貸出上位クラス

## 貸出上位者

順位	クラス	氏名	貸出冊数
第1位	5C	椋本 美里	98冊
第2位	5S	鳴海 航汰	95冊
第2位	5S	村上 太一	95冊
第4位	2M	蔵原 晴生	91冊
第5位	2C	牧 優花	83冊
第6位	5S	高橋 顕太	80冊
第7位	3C	國部 のどか	60冊
第8位	1C	野中 翔学	58冊
第9位	5C	松尾 愛結	53冊
第10位	4E	ナム ノン	49冊
第10位	2S	疋田 萌華	49冊
第10位	4C	田川 達也	49冊

## 貸出上位クラス

順位	クラス	貸出冊数
第1位	5S	301冊
第2位	5C	292冊
第3位	1M	182冊



## 編 集 後 記

まず、思い出の一冊を投稿していただいた先生方に感謝します。書いた先生方の独自で貴重な読書歴を知ることが出来ましたし、本というものが大事な出会いであり少なからずその人に影響を与えていくことをあらためて思う次第です。国語の先生方が綴る「おおいた文学散歩」も12回目を迎え、今後さらに、国語の先生方や県内の観光地巡りがお好きな有志のお方にこのシリーズは継続していただきたいと思えます。当ページに掲載の通り、本校図書館からの年間の貸し出しが多い学生やクラスには毎度感心します。本の数や種類も多い本校の図書館を益々利用活用していただきたいと願うばかりである。

図書館長補佐 相本 正吾